

## 新年のごあいさつ

菊陽町議会議長 大塚 昇



### 菊陽町に住んでいて良かったと実感していただけるよう 執行部と切磋琢磨してまいります

平成26年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。町民の皆さまには、日頃から町議会に對しまして、温かいご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。さて、昨年の国内を振り返ってみますと、各地で記録的な高温や少雨・多雨が観測され竜巻などの突風も発生しました。また、台風が例年よりも数多く発生し、甚大な被害をもたらしました。特に、台風26号は、伊豆大島に記録的豪雨による甚大な被害を及ぼしました。被害を受けられた皆さまに心からお見舞い申し上げます。すとともに、一日も早く復興されますことを願います。災害はいつ、どこで発生するか分かりません。あらためて、危機管理意識を持っておこななければならないと感じました。

次に、経済に目を向けてみますと、安倍首相の経済政策「アベノミクス」で、自動車産業などの一部では明るい兆しが出ているものの、日本経済全体としては道半ばであります。

また、消費税が本年4月から3%引き上げられ8%になります。この増税による景気悪化を防ぐため、政府は、12月に「好循環実現のための経済政策」を決定されました。

環太平洋連携協定(TPP)参加交渉は、年内妥結が見送りになりました。日本が聖域と位置付けるコメなどの重要5品目に対してアメリカが強く関税の完全撤廃を要求しており、年明けからの協議の再開にあたっては、国益は守る覚悟でお願いしたいものであります。

その他、原発再稼働やエネルギー問題、社会保障制度改革など問題が山積みしております。

本町に目を向けますと、8月に菊陽中部小学校の新社舎が完成し、子どもたちは2学期からこの新しい校舎で楽しく学んでおります。

11月には、支所機能のほか、健康・福祉、生涯学習などのサービスを備えた(仮称)菊陽町光の森複合施設新築工事が始まり、本年11月に開業の予定であり、西部地域の新しいまちづくりの拠点としての役割が期待されております。

菊陽中学校の耐震改修事業・増築工事や鼻ぐり井手周辺整備事業も始まりました。

限られた財源の中で、このように重点施策を推進できたのも町民の皆さまのご理解とご支援があったからであります。

私も議会といたしましては、町民の皆さまに「この菊陽町に住んでいて良かった」と実感していただけるよう、引き続き、執行部と切磋琢磨してまいります。

また、開かれた議会を目指して、引き続き、町民の皆さまの声を伺いするために、議会活動報告を兼ねた意見交換会を開催してまいりますので、その際はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

終わりに、町民の皆さまがこの一年を、健康で幸せに過ごせますようにお祈りしまして、新年のごあいさつといたします。

## 新年のごあいさつ

菊陽町長 後藤 三雄



### 「人・緑 未来輝く生活都市 きくよう」を目指して、 まちづくりを進めてまいります

明けましておめでとうございませう。平成26年の新春を迎えるにあたりまして、町民の皆さまのご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げますとともに、町民の皆さまの町政に対する温かいご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、菊陽町では、昨年に引き続き人口が増加し、今年中には4万人を超えるものと思われまふ。全国的に人口減少が言われる中で喜ばしい限りです。これらで、町の将来を担う子どもたちの教育環境を充実させ、子育て支援のための施策を充実させてまいります。

昨年3月には、菊陽西小学校の増築工事が完成し、また、8月には、菊陽中部小学校の新校舎が完成して、子どもたちは木の香りがする明るい教室で授業を受けています。そして、菊陽中学校では、安全で快適な学校生活が送れるよう、耐震と生徒増に対応するための改築工事を開始しています。

また、私立保育園が2園オープンし、その他にも「保育ママ」や「認可外保育所の利用者に対する助成」などなど、可能なことは着実に進めています。

子どもたちを大事にすることが、菊陽町の礎を築き、未来への扉を押し開くことだと信じています。

昨年8月に発表された菊陽町の平均寿命は、男性81歳(全国第38位)、女性88歳(全国第4位)で、男性も女性も、熊本県内では1位というものでした。誇らしい限りです。

今の菊陽町の発展は、皆さまの努力のたまものであると思ひます。これからも、ご家族の安寧と、地域や

町の発展のために活躍いただき、また、自分自身の人生を豊かに全うしていただくためにも、健康で長生きをしていただきたいと思ひます。そのために、高齢者のための健康管理と社会参加のための事業を充実させ、住み慣れた地域で安心した生活ができるよう、地域包括ケアシステムや地域密着型の介護サービス施設の整備を進めています。

人々が安定した豊かな生活をするためには、農業、工業、商業、その他サービス業などが盛んでなければなりません。今の菊陽町は、基幹産業の農業や先端技術の工業などが、消費需要やサービス需要を生んでいる状況です。TPPの問題や、消費構造の変化などの問題はありますが、自意思の強い事業者の皆さまとの協働で、解決できることは少なくないと思ひます。

平成26年は「午年」です。正確にいうと「甲午」です。この「甲」は、「命の芽生えを象徴する」もので、「午」は、「折り返しのスタート」という意味合いがあるそうです。つまり、「新しい折り返しのスタート」ということのように思ひます。また、「午」は「馬」でもあり、馬は菊陽町特産の「にんじん」が好物ですから、「甲午の年」菊陽の年」だと思ひます。

本年を菊陽の年と捉え、皆さまと協働して考え、行動して、「人・緑 未来輝く生活都市 きくよう」の実現のために全力を挙げてまいりますので、皆さまのなご一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。